

ソフトウェア等の脆弱性関連情報に関する届出状況 [2013年第3四半期(7月～9月)]  
～脆弱性の修正完了に長期間(91日以上)を要したウェブサイトの割合が全体の24%と大幅減少～

IPA（独立行政法人情報処理推進機構、理事長：藤江 一正）および JPCERT/CC（一般社団法人 JPCERT コーディネーションセンター、代表理事：歌代 和正）は、2013年第3四半期（7月～9月）の脆弱性関連情報の届出状況<sup>(\*)</sup>を「脆弱性関連情報に関する活動報告レポート」としてまとめました。

<http://www.ipa.go.jp/security/vuln/report/vuln2013q3.html>

<https://www.jpccert.or.jp/report/press.html>

**脆弱性届出状況の報告**

2013年第3四半期の脆弱性情報の届出件数は317件で、内訳はソフトウェア製品に関するものが51件、ウェブサイト（ウェブアプリケーション）に関するものが266件でした。これにより、2004年7月の届出受付開始からの累計は、ソフトウェア製品に関するものが1,620件、ウェブサイトに関するものが7,365件、合計8,985件となりました。

**脆弱性修正完了状況の報告**

届出のうち2013年第3四半期に修正を完了したものは、ソフトウェア製品については26件（修正完了率56%）、ウェブサイトについては204件（修正完了率71%）でした。なお、ウェブサイトの修正完了までに91日以上を要した件数の割合は24%（204件中48件）であり、前四半期の43%（170件中73件）より大きく減少しています。

**ウェブサイト改ざんに悪用される脆弱性について（レポート1-4.参照）**

2013年第2四半期に引き続き、ウェブサイトを構築・管理するために用いられるCMS（Contents Management System）や Apache Struts などのウェブアプリケーションフレームワークの脆弱性が悪用され、ウェブサイトが改ざんされる事例が確認されています。今四半期の脆弱性情報の届出においても、脆弱性が存在する古いバージョンのCMSを利用している旨の届出が、41件寄せられるなど、脆弱な状態のまま使用を続けていることがうかがえます。CMSは、その本体だけでなく機能を拡張するための「プラグイン」の脆弱性が悪用される事例もあり、CMSそのものだけでなくプラグインにも最新バージョンの更新や回避策の早急な対応が必要です。

■ 本件に関するお問い合わせ先  
IPA 技術本部 セキュリティセンター 渡辺／大森  
Tel: 03-5978-7527 Fax: 03-5978-7518  
E-mail: [vuln-inq@ipa.go.jp](mailto:vuln-inq@ipa.go.jp)  
JPCERT/CC 情報流通対策グループ 古田  
Tel: 03-3518-4600 Fax: 03-3518-4602  
E-mail: [office@jpccert.or.jp](mailto:office@jpccert.or.jp)

■ 報道関係からのお問い合わせ先  
IPA 戦略企画部広報グループ 横山／白石  
Tel: 03-5978-7503 Fax: 03-5978-7510  
E-mail: [pr-inq@ipa.go.jp](mailto:pr-inq@ipa.go.jp)  
JPCERT/CC 事業推進基盤グループ 広報 江田  
Tel: 03-3518-4600 Fax: 03-3518-4602  
E-mail: [pr@jpccert.or.jp](mailto:pr@jpccert.or.jp)

(\*) ソフトウェア等脆弱性関連情報取扱基準：経済産業省告示に基づき、2004年7月より開始しました。IPAは届出受付・分析、JPCERT/CCは国内の製品開発者などの関連組織との調整を行っています。